

# 自己実現への道



「明日世界が滅びるとしても、今日君はリンゴの木を植える」

## 第109回 最終回 — 第8章 「信念さえあれば必ず道は開ける」(その13)

### ★ たとえ世界の終末が明日であろうとも、私は今日リンゴの木を植える」

grandfather という単語は『祖父』を意味する名詞であるが、近ごろ、政治関係筋では動詞としても使っている。例えば、政治家たちは、現在私達が背負っている負債を将来の世代に受け渡すという意味の動詞として grandfather を使っている。これはいわば消極的なケースでの使用例であるが、著者は積極的なケースについてこの単語を使ってみようとした。

路傍のタンクに、ガソリンがいっぱい入っているとしよう。あなたが使用しなければ、あなたはそのガソリンを grandfather する(受け渡す)ことができる。後からその道をやってくる人は、その恩恵にあずかることになる。

**人が積極的な行動を積み重ねれば、大きな成果が生まれる。その人自身はその業績の恩恵にあずかれないかもしれない。しかし、他の誰かがその恩恵にあずかるはずである。**

シュラー牧師の住んでいたアイオワ州では、かつて農場の民家を襲って猛威を振るった大竜巻の大被害に遭った。牧師宅の9棟の建物、大部分の家畜、その他ありとあらゆる財産が壊滅した。果樹園も大損害を受けた。年老いて手足が不自由だった牧師の父は、めちゃくちゃになった果樹園内を、杖を片手に、トボトボと歩きながら、荒れた土の表面に杖で「×」型の印を付けて言った。

「ここにリンゴの木を一本植えよう」また、別の場所に移動して「×」印をつけながら、「ここにも、もう一本」と、成長した木をイメージしながら、嬉しそうに…

牧師は、父を見上げながら尋ねた。「でも、お父さん。あなたはもう老人だ。新しく植えたリンゴの木に実が成るまで生きられると思っているの？」

「お父さんが今食べているリンゴは、誰か他の人が植えた木に実ったものなのだ。そうだろう？ だからお父さんは、後を継ぐ人たちのために、植えておいてやらなくてはならないんだよ」と、はね返ってきた返事を聞いて、牧師はハタと思った。

grandfather !! なんと美しい人生の哲理に溢れた言葉であろうか。自分よりも長く存在し、自分よりも長生きをする投資対象について、思いを寄せてみようではないか。

自分は一本の木を植えることができるだろうか？ 秘蔵している秘訣を人に分けてやることができるであろうか？ **自分が歩んできた信念の道についての知識を、私たちは、何らかの方法で、まだ生まれていない孫たちに伝えてやること**ができる。



私達はすべて何かを世の中に残すべきである。そのために生まれてきたと考えるべきである。マイナスを残していくな。また、何もしないで去るな。必ず何かよいものをこの世界のために残すのだ。できるだけ多くのものを残していくよう、がんばっていかうではないか。

<MIKO>

📖 参考文献：Tough Minded Faith For Tender Hearted People by Robert H Schuller より